

## 男性は片思いの影響を受けやすい? 片思いのメリット・デメリット尺度の開発

著者名(日)	加藤 司
雑誌名	東洋大学社会学部紀要
巻	49
号	1
ページ	115-126
発行年	2012-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00003114/">http://id.nii.ac.jp/1060/00003114/</a>

## 男性は片思いの影響を受けやすい？ 片思いのメリット・デメリット尺度の開発

### Males are Susceptible to Unrequited Love: Development of the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale

加藤 司  
Tsukasa KATO

本研究の目的は、片思いのメリットとデメリットに関する尺度し、自己愛、失恋ストレスコーピング、恋愛依存、幸福感との関連性について検証することである。片思いに関する世間一般の関心は高い。例えば、「木枯らしにふかれて」（小泉今日子）、「MY ALL」（浜崎あゆみ）、「ほんとはね」（ソニン）、「ライン」（ポルノグラフィティ）、「無言電話」（Jungle Smile）、「月夜のゴンドラ」（堀川早苗）、「片思い」（浜田省吾）、「SEVENTH HEAVEN」（Perfume）、「最愛」（福山雅治）、「Oh! Yeah」（ORANGE RANGE）、「十六夜の月」（winds.）など、数多くの片思いに関する歌曲が生まれ、多くの人々に支持されてきた。また、インターネットでは、片思いに関する数多くのブログやホームページが開設されており、その関心の高さを示している。例えば、インターネット検索エンジンの Google で「片思い」をキーワードに検索をすると、1,790万件もヒットする（2010年9月19日現在）。しかし、国内外問わず、現在、片思いに関する研究ほとんどなされていない。そこで、本研究では、この片思いに焦点を当てた研究を行う。

片思いにはメリットとデメリットがあることを、われわれは経験的に知っている。本研究では、この片思いのメリットとデメリットに焦点を当てた研究を行う。片思いのメリットとデメリットに関して、日常会話で話されるものの、国内外問わず、現在、片思いのメリットとデメリットに関する研究はなされていない。それゆえ、本研究では、まず、片思いに関するメリットとデメリットの個人差を測定する「片思いのメリット・デメリット尺度」を作成し、その記述統計を呈示する。加えて、自己愛、失恋ストレスコーピング、恋愛依存、幸福感と、片思いに関するメリットとデメリットとの関連性について検証する。

## 研究1 片思いのメリット・デメリット尺度の作成

### 目的

研究1の目的は、片思いのメリット・デメリット尺度を作成することである。まず、片思いのメリットとデメリットに関する記述を収集し、得られた記述を集約する。そして、因子分析によって、片思いのメリットおよびデメリットのいくつかの側面を抽出する。

### 研究方法

#### 手続きと被調査者

片思いの経験がある121名を対象に質問紙調査を実施した。121名のうち、欠損値のない有効回答者数は113名（女性71名、男性42名）であり、この113名を分析対象とした。平均年齢は20.48歳、標準偏差は1.73、年齢の範囲は18歳から26歳であった。

#### 質問紙

大学生を対象とした面接、インターネットの書き込みなどをもとに、片思いのメリットに関する41項目および片思いのデメリットに関する43項目を作成した。これらの項目に対して、「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の5件法によって評定させた。

### 結果と考察

まず、片思いのメリットに関する41項目に対して、因子分析を行った。因子の解釈のしやすさ、因子の減退率などから4因子解を仮定し、再度因子分析（主因子法、プロマックス回転）を実施した。その結果がTable 1である。第一因子は、「両思いになるために頑張る毎日が楽しい」に最も高い付加を示し、「努力の喜び」と命名した（5項目）。第二因子は、「相手を好きになれた事が幸せ」に最も高い付加を示し、「愛することの幸せ」と命名した（5項目）。第三因子は、「相手に束縛されない」に最も高い付加を示し、「恋愛のデメリット回避」と命名した（4項目）。第四因子は、「他に好きな人ができて、浮気にならない」に最も高い付加を示し、「束縛されない自由」と命名した（4項目）。次に、片思いのデメリットに関する43項目に対して、因子分析を行った。これらの項目を持って、片思いのメリット尺度（BULS: the Benefits of Unrequited Love Scale）とした。因子の解釈のしやすさ、固有値の減退率から4因子解を仮定し、再度因子分析（主因子法、プロマックス回転）を実施した。その結果がTable 2である。第一因子は、「他の事が手につかない」に最も高い付加を示し、「愛の占有」と命名した（5項目）。第二因子は、「自分の思いが一方的」に最も高い付加を示し、「愛の一方通行」と命名した（5項目）。第三因子は、「相手に望んでいることを言えない」に最も高い付加を示し、「告白恐怖」と命名した（5項目）。第四因子は、「三角関係におちいることがある」に最も高い付加を示し、「恋愛のドロドロ」と命名した（3項目）。これらの項目を持って、片思

Table 1 Factor Loadings for the Benefits of Unrequited Love Scale in Study 1

項目内容	F 1	F 2	F 3	F 4	$h^2$
F 1 : 努力の喜び					
両思いになるために頑張る毎日が楽しい	<b>.83</b>	.07	-.01	-.03	.72
目標のために自発的に自分磨きをする	<b>.82</b>	-.16	-.15	.04	.55
相手を振り向かせるための努力が楽しい	<b>.74</b>	.14	.00	-.06	.63
両思いに至るまでのプロセスが楽しい	<b>.65</b>	.17	.06	-.03	.59
自分を見つめなおすことができる	<b>.64</b>	-.24	.05	.03	.33
F 2 : 愛することの幸せ					
相手を好きになれた事が幸せ	-.07	<b>.89</b>	.06	-.23	.69
ずっと思い続けられることが幸せ	-.22	<b>.83</b>	-.02	.03	.56
好きな人の事を見ているだけで幸せを感じる	.10	<b>.58</b>	-.08	.24	.54
あこがれの人を追いかけている状態が楽しい	.04	<b>.57</b>	-.06	.12	.38
好きな人ができた事、その事に幸せを感じる	.32	<b>.53</b>	.09	.01	.61
F 3 : 恋愛のデメリット回避					
相手に束縛されない	.10	-.17	<b>.88</b>	-.12	.68
両思いより傷つきにくい	-.09	.07	<b>.57</b>	.03	.34
ケンカをする必要がない	-.08	-.05	<b>.56</b>	.21	.41
相手の良い面だけを見ていられるので、不満がない	-.07	.19	<b>.44</b>	-.08	.23
F 4 : 束縛されない自由					
他に好きな人ができても、浮気にならない	-.01	-.05	-.09	<b>.78</b>	.54
一度にたくさん片思いができる	-.04	.01	-.06	<b>.63</b>	.36
いろいろな人を見極めるいい機会になる	.06	.01	.18	<b>.55</b>	.46
嫌になったら、やめることができる	.04	.10	.26	<b>.42</b>	.41
Factor Contribution	3.99	3.79	2.59	2.73	
Interfactor Correlation Coefficients					
F 1		.52	.29	.37	
F 2			.32	.33	
F 3				.42	

Note. Factor loadings > .40 are in boldface.

いのデメリット尺度 (CULS: the Costs of Unrequited Love Scale) とした。片思いのメリット尺度と片思いのデメリット尺度で、片思いのメリット・デメリット尺度 (BCULS: the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale) とした。

片思いのメリット・デメリット尺度の下位尺度の記述統計を Table 3 に示す。片思いのメリット尺度の下位尺度の内的整合性は、「努力の喜び」因子が  $\alpha = .88$ 、「愛することの幸せ」因子が  $\alpha = .83$ 、「恋愛のデメリット回避」因子が  $\alpha = .76$ 、「束縛されない自由」因子が  $\alpha = .66$ であった。片思いのデメリット尺度の下位尺度の内的整合性は、「愛の占有」因子が  $\alpha = .84$ 、「愛の一方通行」因子が  $\alpha = .83$ 、「告白恐怖」因子が  $\alpha = .68$ 、「恋愛のドロドロ」因子が  $\alpha = .73$ であった。

次に、性差を検討するために  $t$  検定を実施した。その結果が Table 4 である。 $t$  検定の結果、「愛すること幸せ」得点および「愛の占有」得点に有意な性差がみられた。すなわち、男性は女性と比較して、片思いの長所として、愛する行為自体に幸せや喜びを感じており、その一方、短所として、告白して振られてしまったらどうしようと感じていることがわかった。加えて、片思いの長所および短所

Table 2 Factor Loadings for the Costs of Unrequited Love Scale in Study 1

Items	F 1	F 2	F 3	F 4	<i>h</i> <sup>2</sup>
F 1 : 愛の占有					
他の事が手につかない	<b>.94</b>	-.03	.02	.00	.87
寝ても覚めても、相手の事しか考えられない	<b>.87</b>	.02	.02	-.04	.77
ドキドキして眠れなくなる	<b>.83</b>	.02	.00	-.06	.68
食事がのどを通らない	<b>.74</b>	-.06	-.09	.04	.50
叶わない恋なのに、あきらめきれない	<b>.45</b>	.16	.07	.06	.33
F 2 : 愛の一方通行					
自分の思いが一方的	.05	<b>.85</b>	-.10	-.05	.67
自分の気持ちに対して、相手が応えてくれない	-.16	<b>.84</b>	.10	-.03	.71
相手から愛情をもらえない	.03	<b>.75</b>	-.03	.02	.57
思いが実らないことがある	.14	<b>.62</b>	-.15	-.03	.38
独りよがりになってしまう	-.04	<b>.45</b>	.16	.13	.32
F 3 : 告白恐怖					
相手に望んでいることを言えない	-.14	.03	<b>.72</b>	.11	.52
自分の気持ちを知られることが恥ずかしい	.03	-.08	<b>.66</b>	-.11	.41
ふられたら、自分に自信がなくなる	.16	-.04	<b>.62</b>	.03	.46
相手に嫌われることが怖い	.25	.08	<b>.58</b>	.00	.55
気持ちを言いたくても言えない	-.11	-.05	<b>.52</b>	-.03	.23
F 4 : 恋愛のドロドロ					
三角関係におちいることがある	-.03	-.01	.10	<b>.79</b>	.64
略奪愛におちいることがある	.14	-.02	-.20	<b>.78</b>	.64
かけひきをしなければならぬ	-.13	.02	.07	<b>.45</b>	.21
Factor Contribution	3.79	3.35	2.85	1.69	
Interfactor Correlation Coefficients					
F 1		.31	.32	.13	
F 2			.41	.22	
F 3				.13	

Note. Factor loadings > .40 are in boldface.

Table 3 Descriptive Statistics and Alpha Coefficients of Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale in Study 1

Subscales	<i>M</i>	<i>SD</i>	Range	<i>Skew</i>	<i>Kurt</i>	<i>α</i>
Benefits of Unrequited Love Scale						
F 1 努力の喜び	10.85	5.41	0-20	.09	-.97	.875
F 2 愛することの幸せ	11.03	5.34	0-20	-.14	-.79	.829
F 3 恋愛のデメリット回避	7.50	3.98	0-16	-.07	-.51	.759
F 4 束縛されない自由	7.35	3.98	0-16	.39	-.49	.664
Costs of Unrequited Love Scale						
F 1 愛の占有	6.10	5.40	0-20	.99	.20	.844
F 2 愛の一方通行	10.75	4.87	0-20	.21	-1.03	.832
F 3 告白恐怖	10.95	4.83	0-20	-.10	-.69	.679
F 4 恋愛のドロドロ	3.15	2.84	0-12	1.08	.77	.728

Note. *N* = 113. Range is potential range.

Table 4 Contrast of Men With Women for Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale in Study 1

Subscales	<i>M</i>		<i>SD</i>		<i>t</i> values	95% CI		
	Men	Women	Men	Women		<i>LL</i>	<i>UL</i>	
Benefits of Unrequited Love Scale								
F1 努力の喜び	10.26	11.20	5.57	5.32	-0.89	-3.03	1.16	
F2 愛することの幸せ	9.12	12.15	5.48	4.95	-3.03 **	-5.02	-1.05	
F3 恋愛のデメリット回避	7.57	7.45	4.55	3.64	0.16	-1.42	1.66	
F4 束縛されない自由	6.98	7.58	4.41	3.72	-0.77	-2.14	0.94	
Costs of Unrequited Love Scale								
F1 愛の占有	4.48	7.06	5.07	5.39	-2.51 *	-4.61	-0.55	
F2 愛の一方通行	9.83	11.30	4.85	4.83	-1.55	-3.33	0.40	
F3 告白恐怖	9.55	11.80	5.02	4.54	-2.43	-4.08	-0.42	
F4 恋愛のドロドロ	3.48	2.96	2.84	2.84	0.94	-0.58	1.61	

Note. CI = confidence interval; *LL* = lower limit, *UL* = upper limit.

Table 5 Interfactor Correlation Coefficients for Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale

Benefits of Unrequited Love Scale	Costs of Unrequited Love Scale			
	愛の占有	愛の一方通行	告白恐怖	恋愛のドロドロ
努力の喜び	.298 ***	.061	.108	.374 ***
愛することの幸せ	.499 ***	.230 *	.153	.122
恋愛のデメリット回避	-.013	.047	.114	.033
束縛されない自由	.037	.171	.052	.166

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

ともに、全般的に、女性より男性の得点が高かった。このことは、男性は、女性より、片思いの影響を強く受けていることを示唆している。

次に、片思いのメリットとデメリットとの関連性を検討するために、片思いのメリット尺度の下位尺度と片思いのデメリット尺度の下位尺度との相関係数を Table 5 に示す。「愛の占有」(片思いの短所) 得点と「愛することの幸せ」(片思いの長所) 得点との間に有意な中程度の正の相関がみられた ( $r = .50, p < .001$ )。すなわち、片思いをすると、その相手を好きになること自体に幸せや喜びを感じている人は、相手のことを思い続けていることに苦しみを感じていることがわかった。また、「努力の喜び」(片思いの長所) 得点と、「愛の占有」(片思いの短所) 得点 ( $r = .30, p < .001$ ) および「恋愛のドロドロ」(片思いの短所) 得点との間にも有意な正の相関 ( $r = .37, p < .001$ ) がみられた。

## 研究2 片思いのメリット・デメリットと自己愛との関連性

### 目的

研究2の目的は、片思いのメリットおよびデメリットと自己愛との関連性を検証することである。

片思いの長所尺度の下位尺度である「努力の喜び」は、片思いをしている自分自身に満足している因子だとも考えられる。一方、類似した因子である「愛することの幸せ」は、自分自身に満足感を得ているのではなく、片思いという行為に喜びを見出ししている因子だと考えられる。すなわち、「努力の喜び」因子は自己愛と正の相関が予測されるが、「愛することの幸せ」と自己愛との間には無相関が予測される。

## 研究方法

### 手続きと被調査者

片思いの経験がある131名を対象に質問紙調査を実施した。131名のうち、欠損値のない有効回答者は118名（女性61名、男性57名）であり、この118名を分析対象とした。平均年齢は19.67歳、標準偏差は1.22、年齢の範囲は18歳から24歳であった。

### 質問紙

研究1で作成した片思いのメリット・デメリット尺度および自己愛尺度を用いた。自己愛尺度は、自己愛を測定するために小塩（1998）が作成した自己愛人格目録短縮版30項目を用いた。本尺度は「注目・賞賛欲求」（desire for attention and praise）、「優越感・有能感」（sense of superiority and competence）、「自己主張性」（self-assertion）の3つの下位尺度（それぞれ10項目）を有する。両尺度ともに、「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の5件法によって評定させた。

## 結果と考察

片思いのメリット・デメリットと自己愛との関連性を検証するために、Table 6 に片思いのメリット・デメリット尺度の下位尺度得点と自己愛人格目録短縮版の下位尺度得点との相関係数を示す。そ

Table 6 Correlation Coefficients between Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale and Subscale Scores on the Narcissistic Personality Inventory-Short Version in Study 2

		Narcissistic Personality Inventory-Short Version		
		優越感・有能感	注目・賞賛欲求	自己主張性
Benefits of Unrequited Love Scale				
F1	努力の喜び	.265 **	.322 ***	.315 ***
F2	愛することの幸せ	.114	.147	.126
F3	恋愛のデメリット回避	.226 *	.038	.140
F4	束縛されない自由	.203 *	.092	.076
Costs of Unrequited Love Scale				
F1	愛の占有	.168	.326 ***	.170
F2	愛の一方通行	-.015	.146	-.133
F3	告白恐怖	-.096	.117	-.119
F4	恋愛のドロドロ	.244 **	.290 ***	.226 *

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

の結果、「努力の喜び」（片思いの長所）得点と自己愛人格目録短縮版のすべての下位尺度得点との間に有意な正の相関がみられた ( $r = .27-.32, p < .01$ )。これらの結果は予測したとおりであり、片思いの長所・短所尺度の妥当性を支持する結果である。また、「恋愛のドロドロ」（片思いのデメリット）得点と自己愛人格目録短縮版のすべての下位尺度得点との間に有意な正の相関がみられた ( $r = .23-.29, p < .05$ )。これらの結果は予測したものではなく、今後検討しなければならない結果である。

### 研究3 片思いのメリット・デメリットと失恋ストレスコーピングとの関連性

#### 目的

失恋ストレスコーピングとは、失恋に対する対処行動 (coping) を意味する (加藤, 2005)。研究3では、この失恋ストレスコーピングと片思いのメリットおよびデメリットとの関連性を検証する。

#### 研究方法

##### 手続きと被調査者

片思いの経験がある98名を対象に質問紙調査を実施した。98名のうち、欠損値のない有効回答者数は91名（女性41名、男性50名）であり、この91名を分析対象とした。平均年齢は20.09歳、標準偏差は1.64、年齢の範囲は18歳から25歳であった。

##### 質問紙

研究1で作成した片思いのメリット・デメリット尺度および失恋ストレスコーピング尺度を用いた。失恋ストレスコーピング尺度36項目は、加藤 (2005) によって作成され、「未練」「敵意」「関係解消」「肯定的解釈」「置き換え」「気晴らし」の6つの下位尺度と、その下位尺度の上位概念である「未練」(11項目)、「回避」(13項目)、「拒絶」(12項目)を有する。本研究では、この3つの下位尺度を用いた。未練 (regret) は、失恋相手に対して思いを残すような行動、回避 (avoidance) は失恋という悲しみから逃れようとする行動、拒絶 (refusal) は失恋相手に危害を加えたり、失恋相手と関係のある事柄を排除しようとしたりするような行動である。両尺度ともに、「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の5件法によって評定させた。

#### 結果と考察

片思いのメリット・デメリットと失恋ストレスコーピングとの関連性を検証するために、Table 7に片思いのメリット・デメリット尺度の下位尺度得点と失恋ストレスコーピング尺度の3つの下位尺度得点との相関係数を示す。片思いのメリット尺度の下位尺度に関して、「努力の喜び」得点は、「未練」( $r = .36, p < .001$ )、「拒絶」( $r = .30, p < .01$ )、「回避」( $r = .57, p < .001$ )の失恋ストレスコーピング尺度のすべての下位尺度得点と有意な正の相関がみられた。また、「束縛されない自由」得点は、回避



Table 7 Correlation Coefficients between Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale and Subscale Scores on the Coping Scale for Break-ups in Study 3

		Coping Scale for Break-ups		
		未練	拒絶	回避
Benefits of Unrequited Love Scale				
F 1	努力の喜び	.363 ***	.296 **	.565 ***
F 2	愛することの幸せ	.250 *	.129	.209 *
F 3	恋愛のデメリット回避	-.016	.147	.262 *
F 4	束縛されない自由	.065	.091	.420 ***
Costs of Unrequited Love Scale				
F 1	愛の占有	.470 ***	.326 **	.340 ***
F 2	愛の一方通行	.378 ***	.473 ***	.280 **
F 3	告白恐怖	.250 *	.317 **	.144
F 4	恋愛のドロドロ	.224 *	.166	.321 **

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

得点と有意な正の相関がみられた ( $r = .42, p < .001$ )。片思いのデメリットに関して、ほぼすべての下位尺度得点が、失恋ストレスコーピング尺度の下位尺度得点と有意な正の相関がみられた。特に、「愛の占有」得点と「未練」得点、「愛の一方通行」得点と「拒絶」得点との間に中程度の相関がみられた。すなわち、片思いのデメリットを強く感じているほど、失恋したときに、さまざまなコーピングを用いて、何とかしようとするのがわかった。特に、愛することで心がいっぱいになってしまうと考えている人は、失恋したのちの未練が強く、一方的な愛情に関してデメリット感を抱いている人ほど、失恋したのちの失恋相手に対する拒絶感が高くなるのがわかった。

## 研究4 片思いのデメリットと恋愛依存との関連性

### 目的

研究3では、恋愛に対する依存傾向と片思いのデメリットとの関連性を検証する。

### 研究方法

#### 手続きと被調査者

片思いの経験がある97名を対象に質問紙調査を実施した。97名のうち、欠損値のない有効回答者数は97名（女性33名、男性64名）であり、この97名を分析対象とした。平均年齢は20.27歳、標準偏差は1.83、年齢の範囲は17歳から25歳であった。

#### 質問紙

研究1で作成した片思いのデメリット尺度および恋愛依存尺度を用いた。恋愛依存尺度は、伊福・徳田（2006）によって作成された恋愛依存傾向尺度（the Love Addiction Scale）を用いた。恋愛依存

傾向尺度は、「無条件的愛情希求」（6項目）、「パートナーの心理的支え」（4項目）、「パートナー中心的態度」（4項目）、「孤独への恐れ」（5項目）の4つの下位尺度を有する。無条件的愛情希求は、相手に対して、無条件の需要や愛情を求める傾向である。パートナーの心理的支えは、交際相手によって、自分自身の向上や成長を感じる傾向である。パートナー中心的態度は、自分自身よりも交際相手を優先させる傾向である。孤独への恐れは、パートナーがいなくなることに對する不安や寂しさをあらわす傾向である。両尺度ともに、「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の5件法によって評定させた。

### 結果と考察

片思いのデメリットと恋愛依存との関連性を検証するために、Table 8に片思いのデメリット尺度の下位尺度得点と恋愛依存傾向尺度の下位尺度得点との相関係数を示す。まず、全般的に、片思いのデメリット尺度の下位尺度得点と恋愛依存傾向尺度の下位尺度得点との間に正の相関がみられた。すなわち、片思いのデメリットを強く感じている人は、恋愛に依存しやすい傾向にあることが示唆された。個々にみても、特に、「愛の占有」得点は、すべての恋愛依存傾向尺度の下位尺度得点と有意な相関がみられた ( $r = .35-.45, p < .001$ )。特に好きな相手にこころを奪われることを片思いのデメリットであると考えているひとは、恋愛依存傾向が高いと考えられる。また、「告白恐怖」得点も、すべての恋愛依存傾向尺度の下位尺度得点と有意な相関がみられた ( $r = .22-.41, p < .05$ )。

## 研究5 片思いのメリット・デメリットと幸福感との関連性

### 目的

研究3では、幸福感と片思いのメリットおよびデメリットとの関連性を検証する。

### 研究方法

#### 手続きと被調査者

片思いの経験がある87名を対象に質問紙調査を実施した。87名のうち、欠損値のない有効回答者数

Table 8 Correlation Coefficients between Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale and Subscale Scores on the Love Addiction Scale in Study 5

	Costs of Unrequited Love Scale		Love Addiction Scale			
	愛情希求		心理的支え	パートナー中心	孤独への恐れ	
F1 愛の占有	.402 ***		.356 ***	.450 ***	.351 ***	
F2 愛の一方通行	.440 ***		.254 *	.298 **	.100	
F3 告白恐怖	.410 ***		.230 *	.215 *	.326 ***	
F4 恋愛のドロドロ	.220 *		.206 *	.136	.088	

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

は87名（女性30名、男性57名）であり、この87名を分析対象とした。平均年齢は20.06歳、標準偏差は1.69、年齢の範囲は18歳から25歳であった。

#### 質問紙

研究1で作成した片思いのメリット・デメリット尺度および幸福感尺度を用いた。幸福感尺度は、角野（1995）の人生に対する肯定的評価尺度12項目を用いた。両尺度ともに、「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の5件法によって評定させた。

#### 結果と考察

片思いのメリット・デメリットと幸福感との関連性を検証するために、Table 9に片思いのメリット・デメリット尺度の下位尺度得点と人生に対する肯定的評価尺度得点との相関係数を示す。その結果、「努力の喜び」（片思いの長所）得点と幸福感得点との間のみ有意な正の相関がみられた（ $r = .29$ ,  $p < .01$ ）。すなわち、片思いに伴う努力や、片思いのプロセスに喜びを感じることでできる人間は、より幸せであるということがわかった。

### 総合的考察

本研究では、片思いのメリット・デメリット尺度を作成した。因子分析の結果、片思いのメリットでは、「努力の喜び」「愛することの幸せ」「恋愛のデメリット回避」「束縛されない自由」の4つの因子を抽出することができた。一方、片思いのデメリットでは、「愛の占有」「愛の一方通行」「告白恐

Table 9 Correlation Coefficients between Subscale Scores on the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale and a Score on the Well-Being Scale in Study 4

Benefits and Costs of Unrequited Love Scale		Well-being
Benefits of Unrequited Love Scale		
F 1	努力の喜び	.292 **
F 2	愛することの幸せ	.209
F 3	恋愛のデメリット回避	.150
F 4	束縛されない自由	.134
Costs of Unrequited Love Scale		
F 1	愛の占有	.113
F 2	愛の一方通行	-.010
F 3	告白恐怖	-.149
F 4	恋愛のドロドロ	-.012

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

怖」「恋愛のドロドロ」の4つの因子を抽出することができた。次に、片思いのメリット・デメリットと、自己愛、失恋ストレスコーピング、恋愛依存傾向、幸福感との関連性を検証した。その結果、特に以下の事がわかった。自己愛傾向の高い者は、片思いにおいて努力することを片思いのメリットだと思う傾向が高い。賞賛されたいという気持ちが強い者は、片思いで愛情を占有できないことにデメリットを感じる傾向が高い。自己愛傾向が高いほど、片思いにおいて、片思いのドロドロとした関係にデメリット感を抱きやすいことがわかった。片思いのメリットとして、努力することを喜びだと感じている者は、失恋に対して、さまざまなコーピングを用いることがわかった。また、片思いのデメリットとして、愛情を占有できない、あるいは、愛情が一方通行であるということを感じている者は、失恋に対して、さまざまなコーピングを用いることがわかった。また、恋愛に依存しやすいほど、片思いのデメリットも感じやすいこともわかった。今後、片思いに関する研究が進展することを切望する。

#### 付記

本研究は、著者によって指導を受けた東洋大学社会学部社会心理学科山口葵、北沢唯、倉持有紀子（学籍番号順）の卒業論文をまとめたものである。研究1および研究2は、3者の共同研究であり、研究3は北沢唯、研究4は倉持有紀子、研究5は山口葵の研究である。また、本研究はAmourサイエンス研究プロジェクトの資金援助を受けた。

#### 引用文献

- 伊福麻希・徳田智代（2006）恋愛依存傾向尺度作成の試み—男女間における恋愛依存傾向の比較— 久留米大学心理学研究, 5, 157-162.
- 角野善司（1995）人生に対する肯定的評価尺度の作成（1） 第37回日本教育心理学会総会発表論文集, 95.
- 加藤 司（2005）失恋ストレスコーピングと精神的健康との関連性の検証 社会心理学研究, 20, 171-180.
- 小塩真二（1998）自己愛傾向に関する一研究 名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科）, 45, 45-53.

【Abstract】

## Males are Susceptible to Unrequited Love: Development of the Benefits and Costs of Unrequited Love Scale

Tsukasa KATO

The author describes the development and validation of the Benefits of Unrequited Love Scale (BULS) and the Costs of Unrequited Love Scale (CULS), which are designed to assess benefits and costs of unrequited love. The results from exploratory factor analyses with Japanese university students provide evidence for a stable 4-factor structure of the BULS and the CULS. The author demonstrates that men are more influenced by unrequited love than women. In addition, the author reports that the benefits and costs of unrequited love are related to narcissistic personality, coping behavior with a broken heart, love addiction, and well-being.